

笠岡市の防災について問う

質 インフラ整備をするまでの間に市内の企業がどれほど体力を増強できるかが本市として一番の肝だと考える。

答 工事建設用地をさらに確保することによって、インフラを活用していただけるチャンスやシナジーが生まれるのではないかと大いに期待している。また、本市は土地利用の在り方を検討して企業の誘導、進出を図っている。

質 企業体力の向上と強化につながる継続的な施策を市長はどのように考えているのか。

地元企業支援について問う



くわだ まさあき
桑田昌哲議員



質 笠岡市内の防潮堤で津波や高潮による被害を防護できるのか。また、防潮堤の高さは、笠岡市で起こる津波や高潮を想定した必要な高さなのか。津波と高潮はどちらが危険なのか。

答 防潮堤について基本的には設計時に耐力設計などがあるが、その限界値を超えた寄せ波といった現象により防潮堤が破壊されて浸水していく危険がある。本市の場合、南海トラフ地震で生じる津波の高さ3・2メートルよりも、平成16年に発生した台風16号で生じた高潮の高さが3・61メートルと高く、防潮堤の計算をするときは高潮の高さを基準にさらに波等を考慮した計算をし、余裕をもった防潮堤の整備を進めている。津波と高潮は自然現象なので、どちらが危険かはわからない。

視覚障害者のための「音声コード」の利用促進について問う



おおもと くにみつ
大本邦光議員



質 視覚障害者へ送付する公的な通知文において、情報を正確に伝えるための本市の取組を尋ねる。

答 通知文が御家庭に届いたときは、ヘルパーの方やご家族の方が読んで本人へ情報を伝えるということが主になっている。

質 ユニボイスの導入について尋ねる。

答 健康福祉部で導入を検討している。状況によって、テルミーとユニボイスの利用を選択できるような体制を考えている。

質 公共施設の窓口をはじめ、必要な場所へ音声コードの読み取り機械等を設置することについて見解を尋ねる。

答 今現在、福祉の窓口には音声コードを認識する装置を置いていない。今後、スマートフォンやタブレットでユニボイスを利用できるような窓口にしていきたいと考えている。

災害ケースマネジメントの取組について問う

質 被災者一人ひとりに寄り添い、個別の状況に応じて支援する災害ケースマネジメントを実施する方針について見解を尋ねる。

答 災害発生直後は要救助者の救助、要配慮者への対応、避難所運営、被災者の健康状態の把握などが最優先。また、災害ケースマネジメントは危機管理部門のみならず、福祉部門や民間団体との連携も必要になるため、今後、情報収集を行うとともに、研究をしていきたい。